資料 2ー3

＜参考＞ 大阪府新型コロナウイルス対策本部専門家会議委員意見

①府専門家会議(３月 12 日)以降の新型コロナウイルス感染症の状況(世界の状況含む)と大阪府の状況に関する認識

委員	意見
朝野座長	・日本は、最初にクルーズ船の問題があり、中国に次ぐ感染者数の増加がみられ、対応を迫られた。世界からの視線の中でクルーズ船の対応を批判され、危機意識が生まれ、国民も感染拡大を起こさないための個人としての対策をとるようになった。そこに、2 月末から 3 月にかけてのイベントの自粛、休校を行い、国や地方レベルでの対策も行われ、さらに国民の意識が高まった。その結果は、資料※に示すように、対策をやらなければ起こったであろう患者数の増加（日本、シンガポール、香港以外の国の患者数の推移。図にみられるようにほとんどの国で患者数が 100 を超えると同じスピードで急速に増加している。縦軸は対数表示であることに注意）を抑えることができている。次に、日本では、北海道や東京、大阪の例によって感染者の多くがクラスターによる感染であることがクローズアップされ、クラスター対策がなされた。これも有効であり、大阪ではライブハウスのクラスターが制圧された。 ・一方で、クラスターに隠れてみえなかった感染源不明の患者（大阪府では当初、クラスターサーベイランスでさらに詳細な聞き取りを行えば、クラスター内の感染と判明する場合が多いと想定されていた）が、クラスターが制圧されたことで見えるようになり、その数の増加が顕在化した。このことは、これまでの対策では、この感染源不明の患者の増加を抑止できていないことも同時にわかってきた。そのため、クラスター対策を継続しながらも、新たな対策を行う必要が出てきた。
掛屋副座長	・大阪府でのライブハウスのクラスターによる伝播は、参加者や家族の関連を１例１例追って封じ込めていくことで収束させることができた。また他府県でもスポーツジム等のクラスター中心に対策が行われたが、感染ルートが特定できない患者の増加がみられ、次のステージへ移行していると考えられる。 ・我が国全体としては、他国に比較して患者の急増はなく、初期の感染対策が功を奏したと考える。一方、海外では急激な患者増加がみられている国がある。その国の生活習慣や医療体制の問題が関与しているものと推察されるが、急激な増加の原因は未だ不明である。従来の感染対策は重要であるが、それだけでは十分ではない時期が来ていると考える。検査体制や医療体制の確立も重要なポイントである。さらに、継続的な海外からの輸入例への対応が求められる。